

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561 mail info@kouhoku-saibora.net

第 50 号

HP <http://www.kouhoku-saibora.net> FB 港北区災害ボランティア連絡会

2017 年 1 月



\* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

## あけましておめでとございます

このニュースも早や 50 号となりました。今月号は区長の言葉を始め、定例会ではなかなか分からない団体会員の防災への取り組み特集の記念号です。会員の防災への工夫の新連載も始まりました。

### 第 50 号発行に寄せて

### 港北区長 横山 日出夫

港北区災害ボランティア連絡会ニュース 50 号の節目にあたり、一言、御礼申し上げます。

熊本地震では、全国からボランティアが駆け付け、被災者に寄り添った支援活動を行いました。多様なニーズにきめ細かく対応するボランティアの重要性を再認識するとともに、支援を受ける側の備えとして、人の役に立ちたいとの思いを受け入れる受援力と、スキルとニーズのマッチングの仕組を整えておくことの大切さを実感しました。

貴会におかれては、日頃より、防災に関する各種研修や、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練などに熱心に取り組まれるとともに、その活動内容を有益な防災情報と併せ「ニュース」として毎月発行されるなど、区の防災力の強化に多大なるご貢献を頂き、心より感謝申し上げます。

さて、約 3 年前、貴会、港北区社会福祉協議会、港北区役所の三者で災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定を締結させて頂きました。昨年 9 月には、太尾防犯拠点センターで第 1 回目の訓練を行い、その成果を 11 月の地域防災拠点運営委員会連絡会において発表して頂いたところです。

今後とも、貴会とともに実践的な訓練を重ね、更なる防災力の強化に取り組みたいと考えておりますので、引き続きのお力添えをよろしくお願い致します。



### 港北区災害ボランティア連絡会

#### 会長 白井 保

皆様には素晴らしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は関東東北豪雨により大きな被害を受けた常総市からゲストをお招きして常総市の事例を伺いました。今年 3 月には常総市復興視察ツアーを行います。地震や水害など災害発生時にボランティアが円滑に活動できるための訓練も行いました。

内閣府は自治体が発令する「避難準備情報」の名称を「避難準備・高齢者の避難開始」に変更し、全国の自治体に新名称を使うよう通知しました。避難準備情報は一般の人には避難の準備を、高齢者や体の不自由な人には避難を始めるよう促す意

味があったが、岩泉町の高齢者施設では避難準備情報の意味を施設側が正しく理解せず避難が遅れた一因とされました。連絡会の役割はこれらの情報も伝えることにもあります。

昨年から進めてきた「つながりがそなえ」をつくる会の活動を今年さらに推進したいと思っています。

### 災害ボランティア連絡会に期待すること 港北区社会福祉協議会事務局長 池田 誠司

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では、改めて自然の力の恐ろしさを痛感するとともに、身の回りの災害への備えや地域での連携など、災害対策の重要性を痛感しました。

港北区では、平成7年の阪神淡路大震災をきっかけとして、平成10年に災害ボランティア連絡会が結成されました。「障害者は災害時にどうしたらよいか」という声もあり、手話サークルや当事者グループなどもメンバーに入っているのが特徴の一つでもあります。

そして、平成26年12月、念願だった港北区災害ボランティア連絡会と港北区役所、港北区社会福祉協議会の三者で、「港北区災害ボランティアセンターの開所・運営に関する協定書」が交わされ、新たなスタートを切りました。

災害時の準備は、これをしておけば万全ということはなく、これまでも多くの試行錯誤を繰り返して現在に至っています。私たちは、日ごろから知恵や力を出し合って、いざという時のために準備をしておく必要があります。

今後はさらに三者の絆を強くするとともに、構成する団体や個人がそれぞれの特性や技術を活かした取り組みやアイデアを出し合い、この協定の実効性を高めていくことを期待します。

### 富士塚ボランティアグループ

私達には富士塚自治会内の行事などのお手伝いのみならず、地区や個々のボランティアをする仲間がいます。その活動は多岐にわたっています。また港北区災害ボランティア連絡会の各イベントには毎回多数のメンバーが参加していますので、災害の備えに対する関心の高さはお分かりかと思えます。

さて、富士塚では自治会と民生委員が中心になり、【ささえ隊】という組織を作っています。要援護を希望する方に担当する2名のボランティアを決め、日頃からコミュニケーションを取りながら有事に備えています。もちろん私たち富士塚ボランティアグループもお手伝いしています。

### 港北区地域子育て支援拠点どろっぷ

原 美紀

どろっぷ、どろっぷサテライトでは毎月1回、当日にいらしている子育て家庭とスタッフが共に避難訓練とその振り返りを行っております。その過程で、災害時の取り組みにとっても関心の高い方が集まり2014年度に「BOSAIくらぶ」が立ち上がり、子育て中の親が主体的に活動を進めていて、施設

側の方が、その活動から多くの学びを受ける程となっています。

災害時に自ら動ける次世代の子ども達に向けた取り組みでもあり、同時に現状では、確実に家族、街を守らなくてはならない親世代の利用家庭と共に、これからも貴会からも多くの学びを受けて活動していきたいと思えます。

### 活動ホームしもだ

水越 弘子

港北区の端っこの方に「活動ホームしもだ」があります。のどかな風景に囲まれて、地域の方々に支えられて日々元気に活動しております。

災害に関してですが、日々地域に出ていく事が一番なのかなと思っています。「あ〜、そういえば、あそこに障がい者の施設があったね」と思ってもらえるために。とそのためだけではありませんが、毎日アルミ缶回収、配達、買い物、散歩と地域に出ています。

後は、地域の防災訓練に所員と一緒に参加するようにしています。(全員ではありませんが・・・少しづつ) 活動ホームとして、具体的な取り組みはこれからです。つい自分が生きているという前提で考えてしまいます。

誰でも災害が起きた場合に対応ができるしもだにしていきたいです。

(作業所連絡会を代表して活動ホームしもだより  
原稿を頂きました)

### 日本ボーイスカウト神奈川連盟横浜第8団

団委員長 寺口 伸夫

港北区災害ボランティア連絡会ニュース第50号発行、おめでとうございます。50号ということは、4年以上にわたり毎月発行を続けてこられたことであり、その「継続の力」に賞賛を惜しみません。

災害発生時には、ボランティアの連携が重要であることは異論のないことですが、ボランティアであるが故に、組織化に多くの困難が伴うのも事実です。しかし、港北区災害ボランティア連絡会の活動を通じ、多くのボランティア



やボランティアグループが、日常的に連携することで、港北区においては連携の絆が確実に形成されてきていると、心強く感じております。

我々ボーイスカウトも日常よりボランティア活動を行っておりますが、大規模災害時にどのような役割を果たすことができるのか、どのように活動すべきか、まだまだ、検討が不十分な点も多いのが実情です。日本ボーイスカウト神奈川連盟においても、来期より、災害時のボーイスカウト活動について、改めて検討を始めることとしております。当団においては、港北区災害ボランティア連絡会において、おおくのボランティアやボランティアグループ各位と連携をとることで、より検討と準備を重ねて行きたいと考えています。

最後に、酉年の今年、港北区災害ボランティア連絡会のより一層の飛躍をお祈り申し上げます。

### 「かれん」の地震・災害などの緊急時の対応 社会福祉法人かれん 松園 典子

昨年は熊本地震と新潟の大火という大きな災害がありました。熊本の時は、地震がいつでも起こりうるという実感を今まで以上に持ちました。新潟の大火も一個人の不注意が、新しい環境と自然によって、これまで予想もできない大火となりうるということでした。

かれんでは東北地震の後、「緊急時の対応策」をつくりました。それにつけても避難所の大綱小学校は遠く、港北北公会堂は狭く、各施設に待機できないときはどうするのか。

結論としては、災害が発生した時、かれんのスタッフがどう判断し、実動するかが何より肝心なことで、正しく判断するためには、日ごろの心構え、訓練や研修を含めての研鑽がなにより大切だと考えています。

### ガールスカウト神奈川県連盟第21団

小原 信子

港北区災害ボランティア連絡会ニュース50号おめでとうございます。昨年より42団のリーダーが会に登録しました。団の活動は他区ですが港北区在住なので頼もしい限りです。益々会の仲間が増えることを期待しています。

近年の団の活動としては、所属している横浜の19ヶ団は5年間街頭募金とお預かりした寄付金を

持って石巻市教育委員会へ訪問しています。団は引き続き募金活動の協力をするつもりです。ちなみにガールスカウトのモットーは「そなえよつねに」です。

\*各団体のみなさん、ありがとうございました。いざというときは助け助けられる関係を築いていきたいと思えます。

### 横浜北YMCA

館長 山中 奈子

災ボラニュース 50号記念、おめでとございます。横浜北YMCAは菊名駅から徒歩5分ほどのところにあります。一時避難所にも指定されている拠点です。熊本地震の時に大きく報道されていた益城町体育館の運営を熊本YMCAが委託されていたこともあり、横浜北からも2名のスタッフが派遣され、現場のお手伝いをさせていただきました。民間が行政と手を結んで地域の人々とどうかかわっていくのか、減災のために何ができるかをこれからも考えていきたいと思えます。

### ペガサスの災害に対する取り組み・考え

一般社団法人ペガサス代表理事 木村 志義

弊社は、港北区で障害者福祉事業を開始して丸4年になりました。代表である私自身が住居、仕事ともに東京を出たことがないため、事業所周辺の土地勘がまったくなく、創業時にまず不安に感じたのは、「災害時に社員や障害のある利用者を守るためには、何をどうしたらいいのか」がまったくわからなかったことです。そんなときに、港北区災害ボランティア連絡会のことを知り、入会させていただきました。まず、目指しているのは、地域の皆さんと顔の見える関係を築くことです。それが災害に向けての、最大の準備だと思っております。これからも地域の皆さんとよりよい関係を築けるように、できる限り主体的に参加していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



### 港北区手話サークルあじさいの会

当サークル会員はろう者・中途失聴者・難聴者・聴者の男女50名弱です。月4回金曜夜に手話の学習、交流を通してお互いの理解を深めています。

平成18年12月の国連総会で障害者の権利に

関する条約が採択され、手話が言語であることは世界的に認められています。神奈川県でも手話言語条例が平成27年4月1日より施行されました。災ボラでの手話の学習はとても良い取り組みだと思います。手話ができなくてもまずは伝えよう、理解しようという気持ちが大切です。

聞こえないという障害は目で見ただけでは分からないので周りに理解されなかったり誤解を招くことがよくあります。目で情報を得るため聴者に比べると情報量も少なくなりがちです。災害時にも同様のことが言えます。

近くに暮らす会員同士がいざという時に助け合えるよう避難所の確認や非常時の手話の学習を今後も定期的に続けていきたいと思っています。

**\*各団体の皆さん、ありがとうございます。いざという時に各団体の力と連絡会の日常の力が合わさり、有効な活動ができるよう頑張っていきましょう。**

## 太尾第2回訓練

1月20日(金) 9時~12時

会場：太尾防犯拠点センター

内容：受付けテント・宿泊テント設営、地域訪問と情報通信訓練(太尾小、大豆戸小、港北警察、資源循環局、特養ワゲン新横浜、新横浜地域活動ホーム)炊き出し、など

## 新連載 わたしの防災対策

昨年大きな地震被害が出た熊本県ですが、熊本県小野副知事の反省として次の項目を挙げています。本当に効果のある**細かい備え**を企業も家庭も実践する。それは

- ・建物の構造部以外(天井など)の部分の耐震化
- ・家具や棚の転倒防止
- ・常に懐中電灯を持つ

これらは今までも言い尽くされていることですが、それがまたまた被災した経験から言われるということは、いかに実践されていないかを逆に表しています。

そこで今号から会員各自の備えの工夫を連載し、読者の方の参考にして頂こうと思います。それは会員が災害時に無事であり、ボランティア活動ができることにもつながります。

尚、この連載の執筆者はリレー式で、当月の担当者に次回指名権があります。どうぞお楽しみに。

**山口さんちの防災** 山口麻津子(びーのびーの)

自宅にいるよりも外にいる時間の方が長い私にとって「私の防災」イコール「外出先での防災」です。東日本震災後は、いろいろなグッズを持ち歩いていました。でも、ただでさえ荷物が多いこともあり、いつの間にか重さにも負けて携帯しなくなっていました。「きっと、大丈夫だよね」という根拠のない安心感を自分に言い聞かせながら、でもありました。でもそれではいけない!と心機一転。昨年からは、持ち歩くのに軽くて、簡単に使えるようなものに絞り、バッグを替えても忘れないようにまとめてポーチに入れることにしました。

今は、●エマージェンシーブランケット(緊急時簡保温シート) ●笛 ●レジ袋などが入っていて、ポーチにはリフレクターチャーム(交通事故防止用)をつけています。果たしてこれでいざという時に大丈夫なのかは未知数ですが、それでも「きっと、大丈夫」という言い訳で自分をごまかしたままにせず、常に関心をもつようにすることが「私の防災・減災」だと思っています。



### ■1月定例会のお知らせ■

1月18日(水)18時、夜間開催です。お間違えの無いように。そして普段は参加できないお仕事お持ちの会員の皆さん、お待ちしております。

### ■編集後記■

☆新年号が期せずして50号記念号となりました。新しい気持ちで51号を始めたいと思います。ご協力をお願いします。(宇田川)

☆インフルエンザが流行しています。ボーイスカウト横浜第8団でもスカウトが「日替わり」で罹患しています。ノロウイルスも相変わらず「元気」なようです。パンデミックも「災害」です。手洗い・うがいで「災害」に備えましょう。(中島)

☆今回の記事を書くにあたり改めてバッグの中身をチェック。「ま、いっか」と携帯しなくなったものの中にも必要品があるかも・・・と大反省の年明けとなりました。(山口)